

資料3

施設整備方針

2.1 基本理念・基本方針

● 新総合体育館の基本理念・基本方針

基本計画では、基本構想で定めた基本理念・基本方針を受け継ぎます。

基本理念

誰もが集い 未来へ続く 健康拠点

市民のスポーツ活動を推進し、健康寿命延伸に寄与する体育館

方針
1

- ・ 現在開催されている各種競技の大会に対応した機能
- ・ 冷房設備の導入など、快適な競技環境
- ・ ランニングコースの設置など、一人でも気軽にスポーツができる機能
- ・ プール室を併設し、スポーツ施設の集約化による利便性の向上

気軽に市民が集い、多世代の交流を生み出す体育館

方針
2

- ・ 親子でも安心して利用できる機能
- ・ 子供が運動に親しみ、楽しく体を動かすことができる機能
- ・ 子供からお年寄りまで、多世代が交流できる市民交流機能
- ・ 各種イベントの開催機能

防災機能を備えた、安全・安心な体育館

方針
3

- ・ 災害時にも機能を維持することができる耐震性の確保
- ・ 非常用電源や災害備蓄庫など、災害時の避難所機能
- ・ 誰もが安全・安心に利用できるユニバーサルデザイン

環境に配慮し、将来を見据えた、持続可能な体育館

方針
4

- ・ 省エネルギー化及び再生可能エネルギーの活用
- ・ 人口推計や現在の稼働率を踏まえた、効率的かつ適正な規模と運営

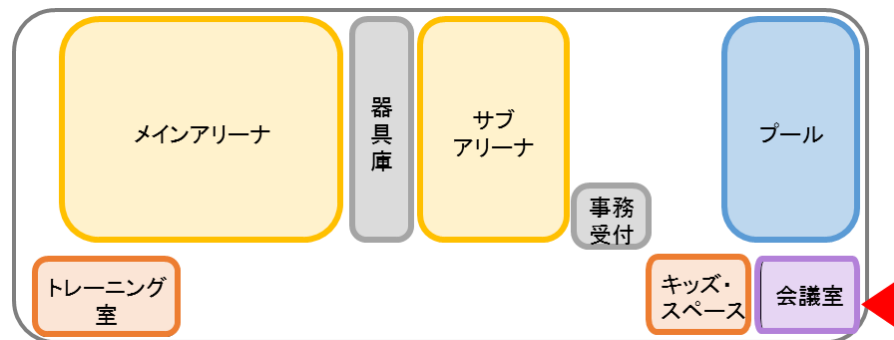
2.2 導入規模・機能

● 基本構想で設定した規模・機能

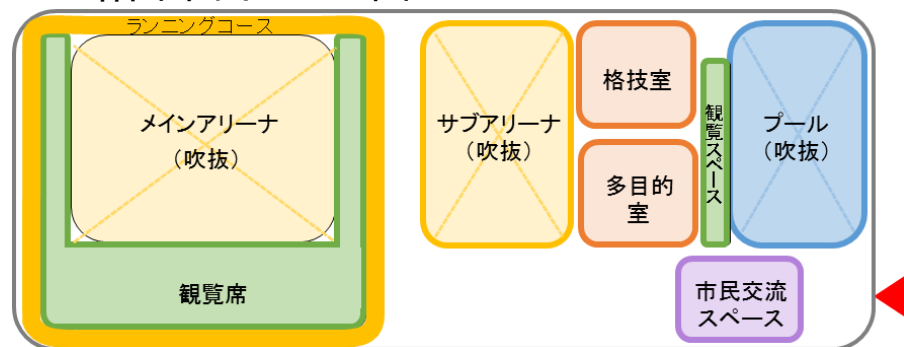
基本構想においては、新総合体育館の規模・機能を以下のとおり設定しています。

諸室		備考	
体育館	メインアリーナ ※バスケットボール2面、6人制バレーボール2面、バドミントン6面、卓球12面等	プール室	プール ※25mプール、歩行用プール、幼児プール
	サブアリーナ ※6人制バレーボール1面、バドミントン3面、卓球4面		採暖室
	格技室		観覧スペース
	多目的室		監視室
	トレーニング室		WC・更衣(シャワー含む)
	観覧席・ランニングコース	その他	下足・倉庫・機械室
	キッズスペース		会議室
	放送室・器具庫等		市民交流スペース
	WC・更衣(シャワー含む)		事務・受付等・救護室
	倉庫・機械室等		災害備蓄倉庫・発電機室・共用部等
		延べ床面積 最大10,000㎡強	

1階平面イメージ図



2階平面イメージ図



2.2 導入規模・機能

● メインアリーナ・サブアリーナの規模

メインアリーナはバスケットボール2面、サブアリーナはバスケットボール1面相当の規模とし、各競技で設置可能なコート面数は、以下のとおりです。

競技	新総合体育館で取れるコート面数			
	公式		非公式	
	メイン	サブ	メイン	サブ
バスケットボール	バスケ2面	バスケ1面	バスケ2面	バスケ1面
バレーボール	6人制バレー2面	6人制バレー1面	6人制バレー2面	6人制バレー1面
バドミントン	バドミントン6面	バドミントン3面	バドミントン8面	バドミントン4面
卓球	卓球12面	卓球4面	卓球21面～24面	卓球9面
硬式テニス	硬式テニス1面	—	硬式テニス2面 ※フリーゾーン不足	硬式テニス1面 ※フリーゾーン不足
ソフトテニス	ソフトテニス1面	—	ソフトテニス2面 ※フリーゾーン不足	ソフトテニス1面 ※フリーゾーン不足
ミニテニス	バドミントン6面	バドミントン3面	バドミントン8面	バドミントン4面
スポンジテニス	バドミントン6面	バドミントン3面	バドミントン8面	バドミントン4面
ラグビー・タグラグビー	バスケ2面	バスケ1面	バスケ2面	バスケ1面
サッカー・フットサル	—	—	フットサル2面	フットサル1面
ハンドボール	—	—	ハンドボール1面	—

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

●公認・非公認プールのメリット・デメリットの変更（令和4年度第3回検討委員会資料より）

当初、公認プールには入水用スロープは設置できないとされていましたが、日本水泳連盟及び北海道水泳連盟が改めて協議した結果、設置しても公認取得には支障がないこととなりました。

	公認プール（国内一般プール）	非公認プール
メリット	<ul style="list-style-type: none">公認競技会の開催が可能となる。公認記録を取ることができる。スタート台を設置し、飛び込みによる練習が可能となる。	<ul style="list-style-type: none">水深に規制が無く、学校の授業や一般的な利用に適している。入水用スロープが設置可能。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">スタート台を使用する場合、水深を1.35m以上とする必要があり、一般利用時・学校利用時は水深の調整が必要となる。入水用スロープが設置できない。計時機器操作室の整備が必要。	<ul style="list-style-type: none">公認競技会を開催できない。公認記録を取ることができない。（水深1.35m未満の場合）スタート台を設置できない。

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

- 公認を希望する団体からの要望、意見は次のとおりです。

北海道水泳連盟

- 令和5年3月31日付けで要望書を受理

（要望書の趣旨）※一部要約しています

小樽市民プールの建設と施設の拡充(公認化)についての要望

- 小樽市は北海道の水泳発祥の地である。小樽水泳協会は創立100周年を令和7年(2025年)に迎える。
- 過去には幼少期を小樽で過ごし選手としての基盤を作ったオリンピック選手など数多くの選手を輩出し、道内の水泳界の普及・指導・競技・選手育成の指導的な立場にある。
- しかしながら、現在市内には公認プールが全くなく、公認大会が開催出来ないため、選手育成や競技役員の養成等他都市への遠征を余儀なくされ、経済的負担や時間的な制約が多く、大変な苦勞をされている。
- 是非、小樽市に公認プール建設し、小樽市民プールから世界に羽ばたく選手の育成を目指してもらいたい。
- その為にも、将来を担うジュニア層の拡充はもとより、大会記録が公認される施設は必須となる。
- 公認大会を開催することにより全道各地から多くの選手が集い交流を深め、家族と共に関係者が応援に駆け付け、経済的効果も期待できる。

一般財団法人北海道水泳連盟

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

小樽水泳協会

- ・ 令和5年4月12日付けで意見書を受理

（意見書の趣旨）※一部要約しています

1. 公認プールを要望する理由

- ・ 現在、市内には、小学生から大学生まで含めると、およそ300名の方が水泳競技選手を目指し、日々、鍛錬を重ねている。
- ・ こうした選手が夢を実現していくには、段階的に、実力に見合った上位大会に挑戦していくことになるが、この大会出場の足掛かりとなるのが、水泳連盟が認める公認記録である。
- ・ しかし、平成19年の市営室内プール廃止以来、小樽市内には公認プールが無いため、当協会では、公認記録を記録する大会を開催するすべがない状況が続いている。
- ・ さらに、令和3年度には、後志管内で唯一の公認プールであった倶知安町営プールも老朽化などにより休止となっており、このまま公認プールが無い状態が続くと、競技者だけではなく、競技役員も育たないため、市内のみならず管内の水泳競技の衰退に歯止めがかからなくなる。
- ・ スポーツ振興の観点から見た場合、市内でも上位選手による大会を開催し、ピラミッド型の競技者層を形成しなければ、競技者全体の裾野が広がらない。
- ・ 水泳は、個人で気軽に親しむことができることから、競技を通して泳ぐ楽しさを知った方は、生涯にわたって水泳に親しみ、健康を保持することができます。超高齢化社会を迎えた今だからこそ、水泳競技の振興に、力を入れるべきではないでしょうか。

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

小樽水泳協会

- 令和5年4月12日付けで意見書を受理

（意見書の趣旨）※一部要約しています

2. 公認プールの活用案について

当協会として、公認プールが実現した際には、次の大会を開催又は誘致し、市内及び後志管内の水泳競技の発展を目指したい。

	大会名	主催
1	小樽市小・中学校高校水泳競技会	小樽水泳協会
2	小樽ジュニア水泳競技会	小樽水泳協会
3	後志ジュニア水泳競技会	後志管内水泳協会共催
4	日本スイミングクラブ協会北海道支部主催公認大会	誘致
5	仮称)小樽ジュニア記録会(新規に企画)	小樽水泳協会

【小樽水泳協会の活動状況】

毎週火・金曜日16:00-19:00高島小学校温水プールで活動中
スイミングクラブ会員56名

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

向井流水法会

- ・ 関係者から要望内容を聞き取り

（要望の趣旨）

- ・ 小樽市の指定無形文化財である日本泳法「向井流水法」を伝承する会。
- ・ プールの水深は、立ち泳ぎ等を想定すると1.5mあるとよいが、最低でも1.3mは必要である。
- ・ 日本水泳連盟では、「日本泳法研究会」(非公認プールでも開催可、平成16年3月小樽市で開催)を各指定泳法で持ち回り開催しているが、小樽市は開催出来るプールが無い~~ため~~、他都市で開催している状況である。
- ・ 高島小学校温水プールは、最深部で1.3mあるが、プール中心部しか深くないので研究会は開催できない。公認プールであれば全面1.35以上の深さとなるので、日本泳法研究会を開催することができる。

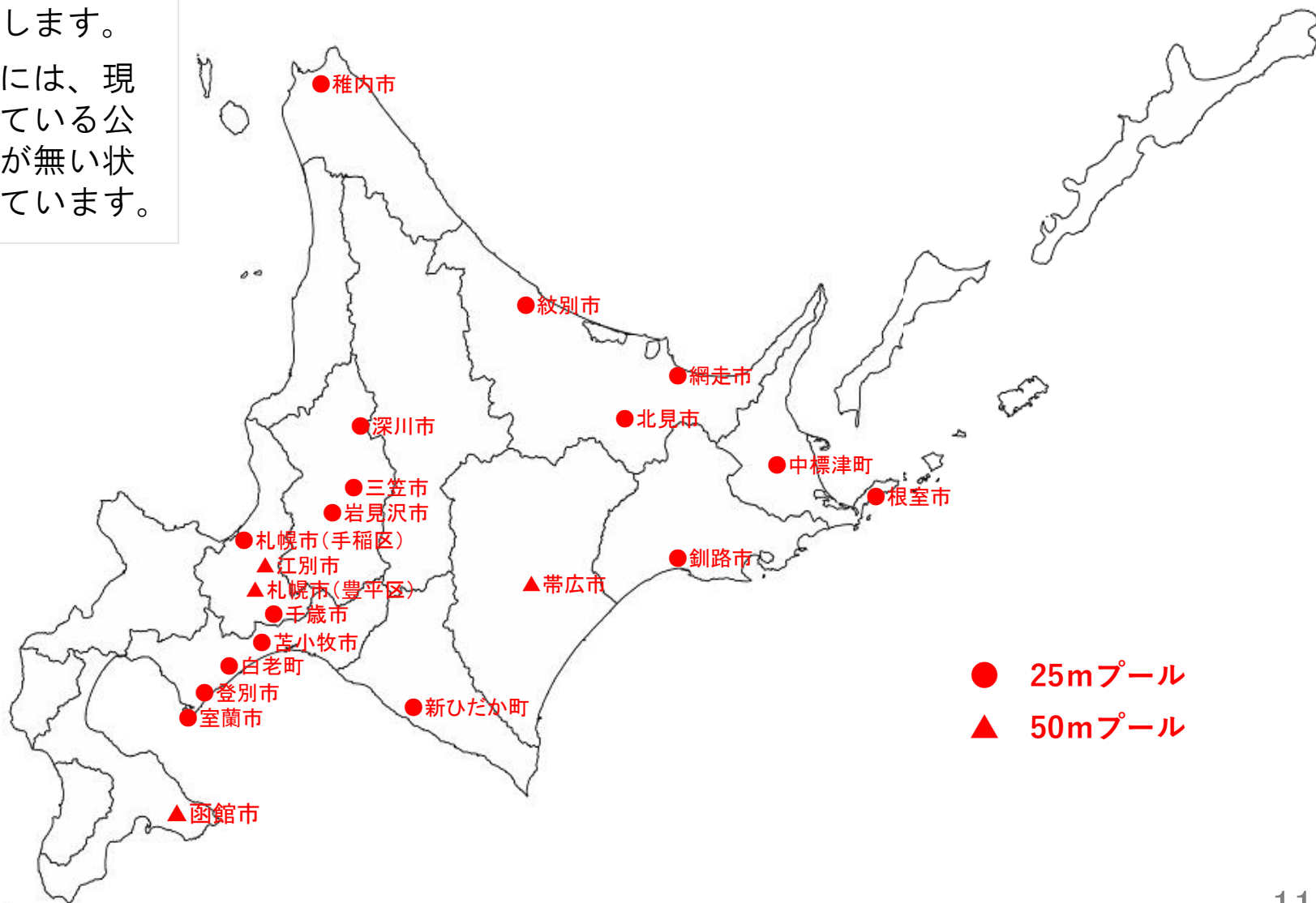
【向井流水法会の活動状況】

毎週水曜日18:00-19:00高島小学校温水プールで活動中。会員52名

毎年8月に、東小樽または塩谷海岸で一般公開を実施

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

- 道内の公認プール設置を示します。
- 後志地域には、現在稼働している公認プールが無い状態となっています。



2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

- 道内には公認プールが22施設あり、その水深調整方法は以下のとおりです。
- プールフロアを使用している施設が最も多く、次いで可動床となっています。

水深調整方法	施設数	施設名
プールフロア	11施設	千歳市温水プール、三笠市温水プール、釧路市鳥取温水プール、北海道立野幌総合運動公園、函館市民プール、紋別市健康プール「ステア」、岩見沢市温水プール、札幌市手稲曙温水プール、稚内市温水プール水夢館、入江運動公園温水プール、網走市民健康プール
可動床	7施設	深川市温水プール「ア・エール」、北見市民温水プール、帯広の森市民プール、登別市民プール、新ひだか町静内町温水プール、札幌市平岸プール、アブロス日新温水プール
調整なし (別途児童用・幼児用の浅いプールを設置)	3施設	根室市温水プール、中標津町温水プール、白老町民温水プール

※倶知安町営プールについては、建て替えの検討中のため上記に含まない。

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

- プールの水深の調整方法には、主に以下の5つの方法が想定されます。

	水深の調整方法	イメージ図
非公認プール	A 段差を設けるタイプ	
公認プール	B 可動床タイプ	
	C タンク貯留による水深調整	
	D 給排水による水深調整	
	E プールフロア設置タイプ	

2.2 導入規模・機能（公認プールについて）

- プールのタイプ別コストは、現時点で次のとおり想定されます。

◎コストの比較（単位：千円、税抜き）

		非公認プール	公認プール			
		A 段差を設けるタイプ	B 可動床タイプ	C タンク貯留による水深調整	D 給排水による水深調整	E プールフロア設置タイプ
イニシャルコスト		53,500	156,300	81,610	67,800	78,840
	プール本体	46,700	145,900	71,210	57,400	57,190
	備品等	6,800	10,400	10,400	10,400	21,650
ランニングコスト/年		7,100	8,100	7,190	8,430	7,100
	水道	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
	燃料：灯油	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800
	水深調整/水道	—	—	—	1,000	—
	水深調整/灯油	—	—	90	330	—
	メンテナンス	—	1,000	—	—	—

※プール本体工事費には、仮設工事、プール基礎、給排水設備、ボイラー等の設備機器類等は含まない。

※プールは全長25m、Aは7レーン、B～Eは6レーンを想定。

※イニシャルコストは、主に令和5年5月調査データを使用。

※ランニングコストは、高島小学校温水プール（6レーン）の平成29年度実績から想定。

※AとEの備品等は、プールフロア（Aは3レーン分、Eは5レーン分）購入代を含む。

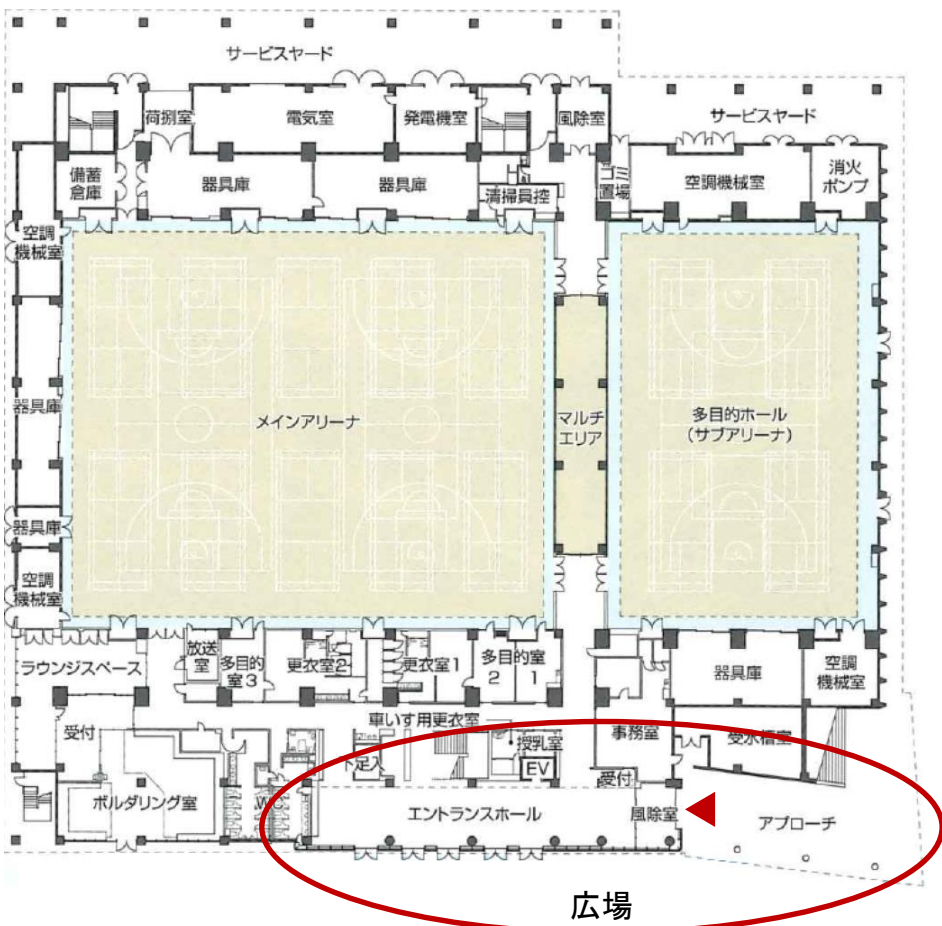
※Eはプールフロア設置に係る労力（人件費）が必要。

※水深は週1回調整を想定。

2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

①青森県むつ市「むつマエダアリーナ」

イベント等に活用できるエントランスホール



2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

②長野県塩尻市「ユメックスアリーナ」



2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

③東京都日野市立南平体育館



2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

④中野区総合体育館



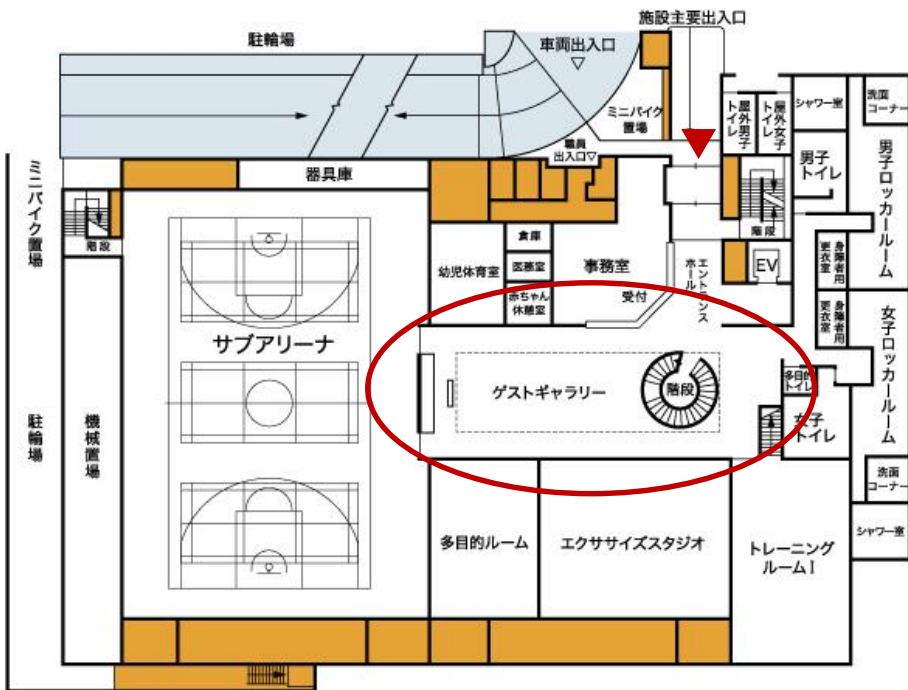
公園



2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

⑤東京都北区赤羽体育館

ラウンジに各室の活動が表出する施設計画



2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

⑥その他事例



大きな窓のあるトレーニング室
(長野県安曇野市)



外からも内部の活動が見えるサブアリーナ
(岡山県岡山市)

2.2 導入規模・機能(にぎわい創出の検討)

にぎわい創出

1. エントランスホールのにぎわい

- ・憩いや交流の場づくり
- ・明るく入りやすい顔づくり

2. 活動の「見える化」

- ・施設内⇔施設外の双方の活動が見える外観
- ・ラウンジ等から各室の活動が感じられる内観

3. 各種条件

新総合体育館の特性を踏まえた検討

- ・敷地内の高低差(駐車場敷地と新総合体育館敷地の間には約5mの高低差あり)
- ・自然に隣接(小樽公園内に位置する体育館)
- ・積雪寒冷地に立地
- ・プール室を併設した体育館